

「仙台版防災教育副読本を活用した指導事例」

<p>中学校 2019年度版 教科・領域名 学校行事</p>	<p>単元名 自分を守る P37 時間 50分</p>
<p>主な学習活動（実際に行った活動）</p> <div data-bbox="167 369 817 526" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【ねらい】東日本大震災の経験をふまえ、津波がきた時に、どのように身を守り、避難すればいいのかを学ぶ。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1 「津波避難エリアマップ」を見て、学区が津波避難エリアに近いことを知る。 2 東日本大震災後に設置された、津波に関する標識を学ぶ。 <div data-bbox="191 884 790 1019" style="text-align: center;">  </div> 3 「津波からの避難の手引き」を見て、正しい避難方法について学ぶ。 4 「津波てんでんこ」の言葉に込められた意味を知る 5 津波から身を守るための方法を問題形式で確認する。 6 本時を振り返り、考えたことを書く。 	<p>指導の実際</p> <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災副読本 ・ワークシート ・津波に関する標識の掲示物 ・仙台市「津波避難エリアマップ」 ・仙台市「津波からの避難の手引き」 <p>○自分の住んでいる地域は地震の後、津波を想定して避難をしなければならないこと理解させる。</p> <p>○津波情報板や標識を示し、意味を理解させる ※標識のある場所を確認しながら進める。 ※参考に国土交通省からのお知らせ「津波情報板・標識を設置しました」のプリントを配布するのも良い。</p> <p>○「津波からの避難の手引き」を全員に配り、一つひとつ確認しながら説明する。</p> <p>○「津波てんでんこ」の言葉には、『自助原則の強調』『他者避難の促進』『相互信頼の事前醸成』という意味が含まれていることを説明する。</p> <p>○P37の問題の答えを考えさせることで、本時の学習内容の確認をさせる。</p> <p>○「正しく恐れる」という言葉を紹介し、“自分の命は自分で守る”という意識を持たせる</p>
<p>●生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『相互信頼の事前醸成』から避難方法を事前に家族や知り合いと考えなければいけないと思った。 ・「津波てんでんこ」に込められた思いを理解し、正しく伝えなければいけないと感じた。 ・自分が逃げることで『他者避難の促進』になり、他者の命を救うことにつながることを理解した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津波に関する標識の意味を知ることが出来て良かった。通学路にある標識を注意深く見て避難経路を確認したいと思った。 <div data-bbox="1149 1601 1412 1960" style="text-align: right;">  </div>

第4章 2 自分を守る

組 番 氏名

② 津波から身を守るために

1 津波に関する標識を覚えよう。

		

2 「津波てんでんこ」とは

3 次の文章について、正しいか正しくないか○×を付けてみよう。

Q 1 逃げるときは、できるだけ海岸から遠くに逃げた方がよい。	
Q 2 津波注意報や警報を聞いて、情報を確認してから逃げた方がよい。	
Q 3 津波のとき、早く逃げるために自動車を使った方がよい。	
Q 4 37ページの標識は「津波避難場所」を示している。	
Q 5 三陸地方には、「津波てんでんこ」という言い伝えがある。これは津波がきたら、たとえ家族が心配であっても、てんでばらばらに高台に逃げるという意味である。	

4 今日の授業を通して考えたことを書こう。
